



東京工業大学博物館・百年記念館
Tokyo Tech Museum and Centennial Hall

概要

「東工大らしさ」を集約し、学内外へ発信する拠点となる東京工業大学博物館は2011（平成23）年4月1日に誕生しました。博物館は、東工大で生み出された教育と研究の歴史的成果、現在進行している様々な先端研究や社会への応用実績、本学卒業生の社会における成果等を収集・調査・保存・研究及び伝承することにより、社会に向けて広く発信することを目的として活動しています。博物館相当施設としての指定を受けた大岡山キャンパスの百年記念館と、すずかけ台キャンパスの総合研究館(S1棟)1階にある展示室では、実体としての成果物を通じて東工大を感じていただけます。さらに参加者の方々が研究者や学生と共通のテーマについて一緒に話し合いできるような、サイエンスカフェや特別展示などの企画を開催しています。これらの活動は、博物館設立の源となった百年記念館における活動コンセプトに支えられ、引き継がれています。

■ 百年記念館について

東京工業大学百年記念館は、本学が創立100周年を迎えた1981（昭和56）年、「東京工業大学創立百年記念事業」の一環として計画され、1987年11月の開館以来、本学におけるミュージアム機能としての中心的な役割を果たしてきました。創立百年記念事業に当たっては、本学の同窓会である社団法人蔵前工業会を母体とする募金会（土光敏夫会長）が結成され、卒業生や関係の諸会社から寄せられた基金によってその計画が進められました。以下は、当時の募金趣意書に記された記念館設立の目的（抜粋）です。

「東京工業大学百年の歴史は、正にわが国工業の発展を支えた科学・技術の教育・研究の歴史そのものであり、（中略）その教育・研究に用いられた貴重な器材や文書・記録が数多く集積されています。これを体系的に整理し展示することは、たんに東京工業大学にとってだけでなく我が国全体の科学・技術の教育・研究の発展のため先人の果たした業績を明確にする意義をもつものであり、更にこれを踏まえて今後の一層の発展を図るための貴重な礎石となると考えます。

そこでこの記念すべき創立百年の時期に当たり、正に『科学・技術の教育・研究百年』の業績の展示・保存を中心とする『百年記念館』を建設し、そこに現在における科学・技術の最先端の所産をも併せて展示して、東京工業大学の遠き将来に向けての一層の発展のための一大モニュメントとする計画であります。」

（東京工業大学創立百年記念事業資金募金趣意書より）

上記の趣意書にあるように、百年記念館は「科学・技術に関わる業績の保存と展示」を中心とした博物館的な建物としてその計画がスタートしました。百年記念館専門委員会（委員長 平井聖教授（当時））は、その具体像に対して「人からの伝承」と「物からの伝承」という2本の柱を核とするコンセプトを設定しています。つまり、先端の科学技術に取り組む態度や関わり方について、実社会にて様々な役割を果たされている先輩方と直接対話して学ぶこと〈人からの伝承〉と、創出された技術や研究成果にある背景を具体的資料を通じて学ぶこと〈物からの伝承〉ができる場の実現が目的でした。このコンセプトをもって百年記念館が誕生し、博物館へと繋がる今日までの運営の礎となりました。

建物の意匠設計には篠原一男教授が当たり、1986年10月に着工、1年後の1987年9月に竣工しました。その後の竣工披露式典、募金会からの東京工業大学への建物の寄附を経て、同年11月に開館を迎えました。また、展示に関しては百年記念館専門委員会の中に展示部会（主査 道家達将教授（当時））が設けられ、学内の収蔵品の収集、展示計画が作成された後、同11月16日から開館記念特別展示が開催されました。

百年記念館の開館以後20年余りの間には、地階収蔵庫の改装による特別展示室の拡張や、2階の中小会議室の展示室化などが実施されました。また特定のテーマに基づく企画展示会（特別展示）が年数回開催されるなど、博物館としての機能・活動の充実が図られてきました。そして博物館となった今日では、近接する東工大蔵前会館（TTF）や2011年7月にオープンした新図書館と共に〈人〉や〈物〉からの伝承・交流が日常的に行われる、本学ならびに地域における文化・科学技術に関する学術交流の中心拠点となっています。



館内ガイド

東京工業大学博物館・百年記念館には、展示室を中心に会議室や談話スペースがあります。1階のガラス張りの開放的な空間は、企画展示やシンポジウム会場、また学生の自習や話し合いに最適なラーニングスペースとしてご利用いただけます。

3階にはフェライト記念会議室と談話室があり、中規模の会議や講演会、レセプション等の催しが可能です。また屈曲したハーフシリンドラーの4階は、細長い空間を活かした「ミーティングスペース」として生まれ変わりました。

また本学における教育・研究の歴史を示す展示資料約600点、文献資料約6,200点が収蔵されており、地階と2階に分かれた常設展示室で一部を展示公開しています。これらは当館設立以前に教育や研究へ活用されていた貴重な機器・物品等から、設立後に卒業生や学外から寄贈された資料・作品類まで多岐多様に渡ります。以下にその一部を紹介します。



東工大歴史資料、手島精一、正木退蔵、和田小六資料等の展示



森田清・西巻正郎研究室製作等 真空管コレクション

平野耕輔陶磁器コレクション

東工大卒の工芸家らの作品コレクション

ホログラフィー研究および作品コレクション

卒業生近藤茂制作絵画コレクション

正木退蔵資料

手島精一資料

森田清・西巻正郎研究室製作等真空管コレクション

谷口吉郎建築資料

篠原一男建築資料

東工大で使用された計測器・計算機コレクション

パーソンズタービン

可動する最古のスターリングエンジン

東工大で使用された紡織機コレクション

東工大で開発された大型機械コレクション

古賀逸策水晶発振子研究資料

フェライト研究資料

和田小六を中心とする第二次世界大戦直後の東工大改革資料

ロボット研究コレクション

東工大設立時の建築物建設写真コレクション

古橋家文書資料

東工大歴史資料

東京高等工業学校学生ノート(仁木源吉氏他)コレクション

神原周関連コレクション

中田孝歯車研究資料

末松安晴・伊賀健一光通信研究資料

田中郁三光化学研究資料

ノーベル賞受賞資料

B1

特別展示室

Mon - Fri 10:30 - 16:30

[入場無料]

【展示】

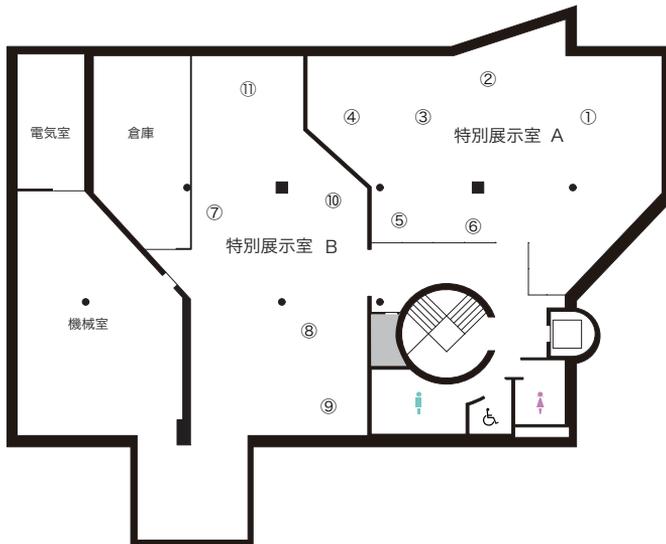
特別展示室 A

- ① 陶磁器研究コーナー：G、ワグネル、平野耕輔が指導的役割を担った陶磁器研究資料の紹介
- ② 建築資料コーナー：谷口吉郎、清家清の建築の紹介と解説
- ③ 化学、化学工学研究コーナー：神原周のシンセン合成、内田俊一と化学工学科創設、星野敏雄・佐藤徹雄によるビタミン B₂ とウロソの工業的合成、光イオン化とレーザー光化学の研究、白川英樹による導電性高分子の発見と開発
- ④ フェライト研究コーナー：加藤與五郎・武井武とフェライト研究
- ⑤ 東工大で育った工芸デザインの先導者たちコーナー
中田清次・板谷波山・河井寛次郎・濱田庄司・芹沢銈介・各務鏞三・辻晋六・辻常陸・島岡達三・田山精一・加藤鈔・村田浩
- ⑥ ノーベル賞コーナー



特別展示室 B

- ⑦ 紡織機械コーナー：紡織（学科実験）工場で使用された繊維機械類（フラットカード機、豊和工業 N 型織機、大型毛織機ドブクロス、他）
- ⑧ 歯車研究コーナー：中田孝による歯車工学研究の紹介
- ⑨ ロボット研究コーナー：森政弘・梅谷陽二・広瀬茂男らによる研究の紹介と実物展示（GAWALK、ヘビ型ロボット ACM-III、他）
- ⑩ ホログラム展示コーナー：医療診断用立体視システムを始めとする本学のホログラフィー研究、卒業生や国内外の芸術家による作品コレクションの紹介
- ⑪ 世界的技術遺産コーナー：パーソンズタービン、可動する最古のスターリングエンジン、他



利用設備・備品については、最終ページ「おすすめツール紹介」をご覧ください。

大学のインフォメーション機能を併せもつ活動的な学修スペースです。展示や研究発表、各種セミナー、ワークショップ等の場として利用できる空間であり、通常時は談話や授業外のグループワークとしてご利用いただけます。

また学内情報を中心とした広報棚も設置されていますのでお気軽にご覧ください。

「T-POT」とは？

百年記念館1階がラーニングスペースとして生まれ変わる際の公募で、多数の応募の中から決定したネーミングです。

Tokyotech
People, Performance
Opportunity
Technology

それぞれの頭文字からとり、「人々がパフォーマンスを楽しみ、情報交換をしながら好機を得て、新技術をつくりだす場所」という意味が込められています。



【展示】

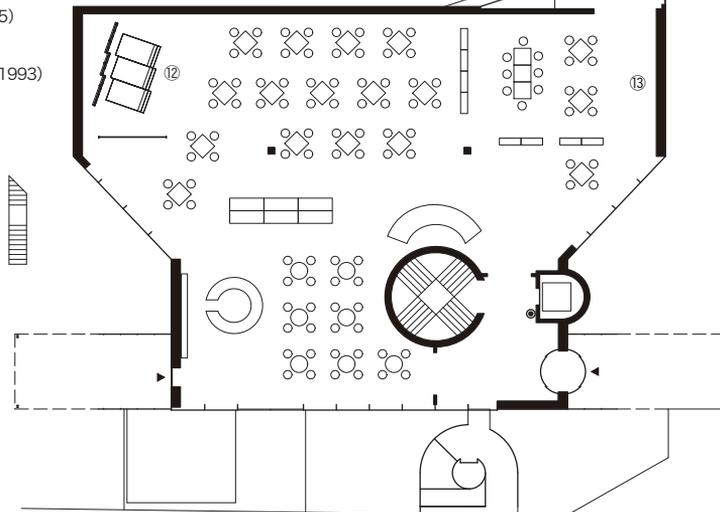
ラーニング & インフォメーション・commons (T-POT)

⑫ 「アクエウスのつぶやき」

(石井勢津子 1995)

⑬ 「風景」

(岡本隆郎 1992-1993)



2

展示室

Mon - Fri 10:30 - 16:30

[入場無料]

【展示】

⑭ 東京職工学校創設～新制東工大の発展



明治 14 年に設立された東京職工学校から、東京工業学校 (明治 23)、東京高等工業学校 (明治 34)、さらに大学昇格 (昭和 4) 後、現在に至るまでの本学の沿革に関する資料を紹介しています。

東工大年表

手島精一：工業教育の基礎を築く
正木退蔵：東京職工学校初代校長
和田小六：終戦直後の日本の全
大大学の改革の先頭に立つ

⑮ 電気～光 / 通信の先端研究史



東工大では 1920 年代末頃から今日にかけて、電波通信から光通信へと繋がる通信の先端技術に関する研究が続けられています。古賀逸策による高安定水晶発振子の発明など、本学で生まれた多くの歴史的成果を紹介しています。

⑯ 百年記念館 / 篠原一男

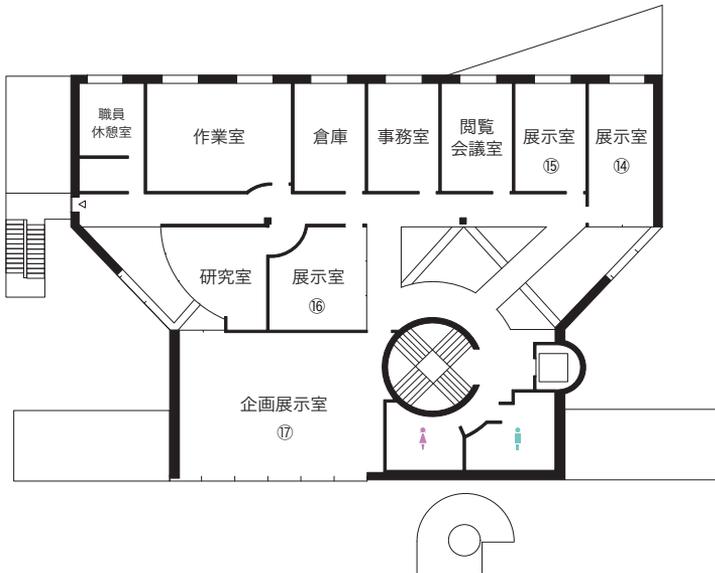


本学の創立 100 年を記念して設立された百年記念館の紹介と、その設計者である篠原一男の建築作品の模型を中心に展示しています。

⑰ 企画展示室



平成 30 年 8 月のリニューアルオープンより、ミニ企画展示やワークショップなどのイベント会場として多目的スペースに生まれ変わりました。



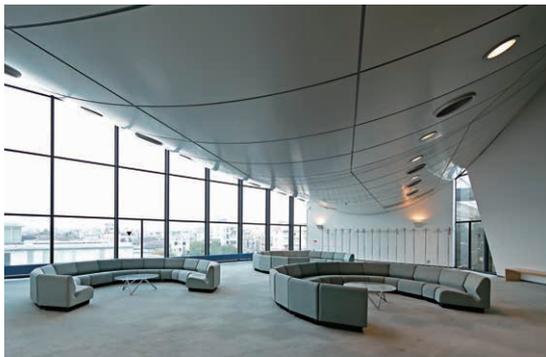
3

フェライト記念会議室

(要予約・有料)

中規模会議、講演会などに利用できます
(収容人数：76人、最大100人 飲食可)

駅から徒歩1分という好立地で中規模会議、講演会などにご利用いただける会議室です。手前にある談話室は受付や待合としても利用できます。風景を一望できるガラス張りとし、湾曲したハーフシリンドラーが突き抜ける天井が印象的な空間です。

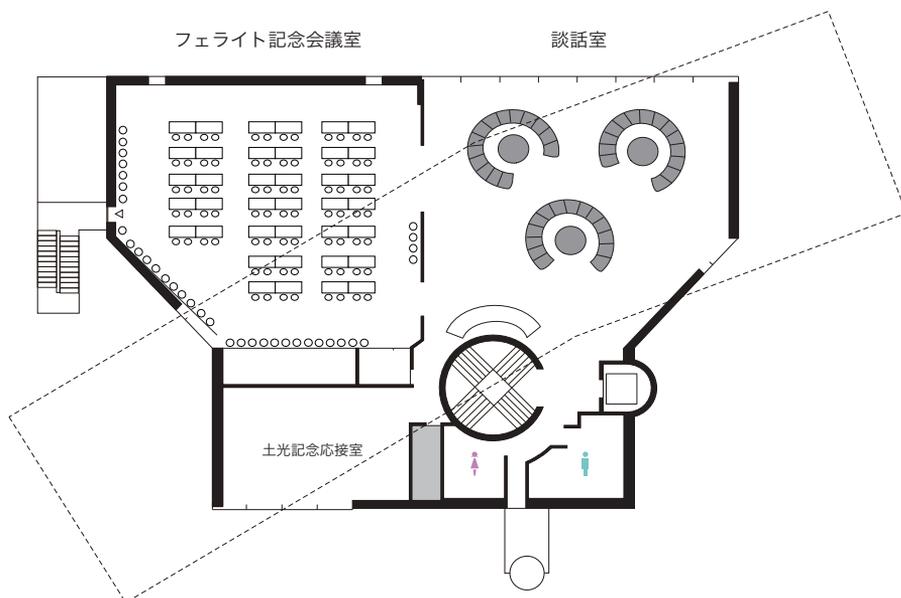


「フェライト」とは

酸化鉄を主成分とする酸化物磁性材料であり、1930（昭和5）年に東工大で、加藤與五郎教授と武井武助教授が発明し特許を取得しました。最初に強力な永久磁石となるコバルトフェライトが合成され、次いで、優れた高周波磁心材料特性を有する「銅-亜鉛フェライト」が合成されました。東工大で生まれたフェライトはその工業化が卒業生らの手で行われ、社会に大きく貢献しました。このことを記念して、この会議室は「フェライト記念会議室」と命名されました。

談話室 フェライト記念会議室前の談話室は、ご予約の方であれば自由にご利用いただけます。

施設利用については「利用案内」ページをご覧ください。



4

ミーティングスペース (要予約・有料)

小規模の会議セミナー、レクチャーなどに利用できます

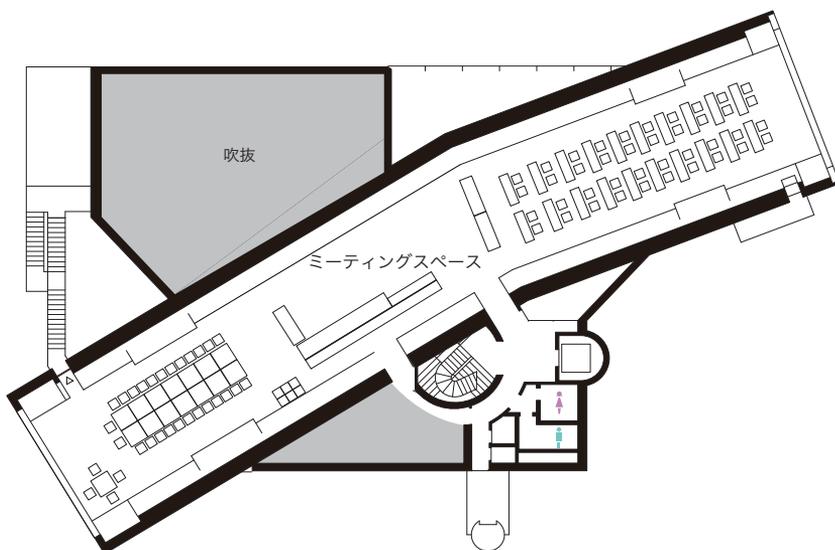
(収容人数：40人、最大80人 飲食可)

百年記念館を特徴付ける大岡山駅側から本館方向まで伸びる屈曲したハーフシリンダー。その内部が新しく「ミーティングスペース」としてリニューアルしました。(旧レストラン角筈)

会議の規模に応じて、移動可能なパーティションで空間を自由に区切ることができます。またパーティションにはスピーカーとプロジェクタが内蔵されており、スクリーンとして利用することも可能です。



施設利用については「利用案内」ページをご覧ください。



利用案内

東京工業大学博物館・百年記念館 月 - 金曜日 8:30 - 17:00 (祝日, 年末年始等の休館日を除く)

- 常設展示室 (地下1階、2階) 10:30-16:30 [入場無料]
- ラーニング&インフォメーション・コモンズ「T-POT」 (1階) 8:30-17:00
- フェライト記念会議室 (3階) [要予約・有料]
- ミーティングスペース (4階) [要予約・有料]

会議室利用受付 TEL : 03 - 5734 - 2098 (9:30 - 17:00) Mail : centjim@jim.titech.ac.jp

※利用の際の「使用責任者」は学内の教職員に限定させていただきます(学生、OBOG 不可)

	施設名称	部屋面積	定員数 (最大席数)	利用料金 (1時間単位)		備考
				学内	学外	
1階	Aゾーン	81㎡	20	¥ 2,511		
	Bゾーン	100㎡	56	¥ 3,100		
	Cゾーン	42㎡	28	¥ 1,302		
	全 面	360㎡	104	¥ 11,160	¥ 22,320	
3階	フェライト記念会議室	364㎡	76 (100)	¥ 11,284	¥ 22,568	前室の談話室を含む (面積 176㎡)
	土光記念応接室 ※下記条件あり	60㎡		¥ 1,860	¥ 3,760	
4階	ミーティングスペース	301㎡	40 (80)	¥ 6,231	¥ 12,463	

《注意点》

・会議室は原則として教育・学術を目的とし、本学の教職員、その他の学術団体等が主催する会合にご利用可能です(応相談)

- ・1階はゾーン貸出が可能です。他ゾーンと完全に区切ることはできません
- ・1階の学外貸出は全面使用の場合のみとします
- ・3階の土光記念応接室の貸出は、3階または4階使用の場合のみとします

空き状況等を含め、詳細につきましては博物館ホームページにてご確認ください。か、博物館事務室までお問い合わせ下さい。

お問合せ・アクセス

■ 博物館・百年記念館

月 - 金曜日 9:30 - 17:00

TEL : 03-5734-3340 FAX : 03-5734-3348

Mail : centjim@jim.titech.ac.jp

URL : <http://www.cent.titech.ac.jp/>

■ 資史料館・公文書室

本館3階 337号室 (閲覧室・事務室)

月 - 金曜日 10:00 - 12:15 13:15 - 16:00 (入室は15:30まで)

TEL : 03-5734-3347 FAX : 03-5734-3778

Mail : centshiryou@jim.titech.ac.jp

URL : <http://www.cent.titech.ac.jp/>

■ すずかけ台分館 総合研究館S1 (1階)

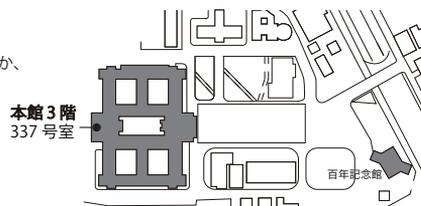
(すずかけ台地区事務部 研究院支援課 研究院事務第2グループ)

月 - 金曜日 12:00-17:00 (受付は16:30まで)

TEL : 045-924-5991

Mail : ken.jim2@jim.titech.ac.jp

URL : <http://www.iir.titech.ac.jp/museum/>



〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1
東急目黒線・大井町線 大岡山駅 下車
大岡山キャンパス内
《博物館》百年記念館
《資史料館・公文書館》本館3階 337号室



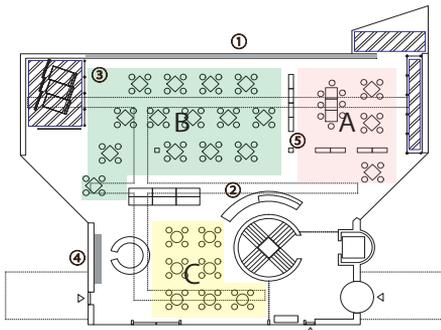
〒226-8503 神奈川県横浜市緑区長津田町4259
東急田園都市線 すずかけ台駅 下車
すずかけ台キャンパス内 S1棟 1階

ラーニング & インフォメーション・コモンズ (1F/T-POT) おすすめツール紹介

「場所」×「人」を
つなぐ便利なツールが充実!



A から C までの 3 ゾーンからなる開放的な T-POT は、学生や教職員が学修や授業、ミーティング、ワークショップなど多様にご使用いただくことができます。また企画展示なども開催しています。広報棚には大学内外の情報誌を常置しておりご自由にお持ち帰りできます。



A/B ゾーン

① ホワイトウォール (幅約 30m)

壁に直接文字を書いたり、ふせんなどを貼り付けて使用できる壁です。マグネットも使用でき、ディスカッションやグループ作業、セミナー等に最適です。

関連備品：ホワイトボードマーカー (4色)、拭き取り用クロス等

A/B ゾーン

② プロジェクター (コミュニケーションツール)

ホワイトウォールに最大 5 台同時に投影できる、移動可能なプロジェクターです。プレゼンテーション等に最適です。

ツール内備品：HDMI ケーブル、VGA ケーブル、Mac ディスプレイポート→HDMI 変換コネクタ、レーザーポインター、延長コード等



C ゾーン

④ウォールビジョン

壁付けされたウォールビジョンは学内情報や、学内テレビ会議室システムを利用したイベントの放映ができます。PC 等からの出力・放映も可能です。

A/B/C ゾーン

⑤可動棚

授業やイベント等での荷物置きや、ゾーンを仕切るパーティションとしてもご利用いただけます。



A/B/C ゾーン

③可動式電子黒板

専用タッチペンで自由に文字や図を描くことができます。また PC に接続するとモニターとしても使用できます。

ツール内備品：HDMI ケーブル、VGA ケーブル、Mac ディスプレイポート→HDMI 変換コネクタ、USB ケーブル等



スペース貸出の注意

- ・館内施設の利用は事前の申込が必要です。
- ・学外者が半数を占めた使用の場合は、1 階の全面利用のみとさせていただきます。詳細は「利用案内」ページをご覧ください。
- ・上記の備品は施設内での使用に限定させていただきます。備品の学外貸出は行っておりません。

利用受付・問合せ

博物館ホームページ <http://www.cent.titech.ac.jp>

百年記念館会議室受付 (博物館事務室) TEL 03-5734-2098 E-Mail centjim@jim.titech.ac.jp



